

地域の皆さんに、一体となって保育園・小中学校を支えていただく、  
「池田町コミュニティ・スクール」 **かわら版**



**地域防災のあり方を考える**



池田町は洪水や土砂災害、地震等により甚大な被害が発生する可能性があります。池田町の各学校園では防災学習を実施し、池田保育園も毎月避難訓練を行っています。従来は学校園内だけの避難訓練にとどまっていたが、近年は地域と協働したより実践的な防災学習や対策を考えています。高齢化や地域コミュニティの繋がり希薄化も指摘される中で、今回は各小中学校の防災への取り組みについて知っていただき、学校園と地域が協働できることについて考えたいと思います。



**紹介**

**小・中学校を核にして考える地域の防災**

**【池田小学校】消防団と協働 放水や救命の方法を学ぶ(9/26)**

池田小学校では、池田町で活躍している消防団の方々に来ていただき、放水や救命方法、災害時の避難所運営について教えていただくことで、実践的な防災学習をしました。9月の防災月間に、消防団の活動場面を見せていただくことで、子どもたちの防災意識の醸成を願い計画。親が消防団に所属している小学生(5年生)は「お父さんがどのような活動をしているのか分かってよかったです。」と話してくれました。消防団の活動を知り、興味をもってもらう点でも効果があったようです。学校側は「地域で活動している人たちが協力してくださることで、学習の幅が広がり、子どもたちはより実践的な学習ができました。今後は、避難所の運営体験ができる機会などを計画したいです。」と話してくれました。



**【高瀬中学校】実際に地域に出る(10/8)**

※  
本年度の学校安全総合支援事業の拠点校は高瀬中学校です。昨年度までは校内だけで行われていた防災学習ですが、本年度は実際に地域に出て学習を深めました。まず、長野県砂防ボランティア協会の宮澤洋介さん・太田多久治さんから災害の危険性やハザードマップの見方についてお話をお聞きました。自主防災会や保護者の方も講演に参加しました。その後、生徒は自分の住む地区ごとに土砂災害が想定される山側と洪水が想定される川側の2つ地域に分かれて、危険箇所や避難方法について学びました。生徒は高瀬川の堤防など現地に赴き実際の状況を見ることで、災害をより自分ごとと感じられたようです。学校側は、「地域に出て学習できたことは大きな一歩であり、さらに地域の方と一緒に地域防災について考えていきたいです。」と手ごたえを感じているようでした。

※学校安全総合支援事業…学校外の専門家による支援により、学校や地域における安全教育・安全管理の充実を図るもの。



**【会染小学校】地域への根付かせ方と継続方法 2年目の防災参観(11/9)**

会染小学校では、昨年度に引き続き防災参観が行われました。今年度は特に保護者と一緒に学ぶことをテーマに先生や講師の方が授業をしました。北陽建設株式会社の担当者は、5年生のクラスで子どもの関心を引き出すことを意識し、オリジナルの模型を使って災害発生のメカニズムについて伝えました。児童は「なんでこうなるの?」と興味津々でした。また、6年生の授業をした日本防災士会の大久保さんは、実際に体験し触れてもらうことを大切にしており、簡易ベット設置体験を通して防災に馴染みを持ち、自分にできることを考えてほしいと願っていました。学校安全総合支援事業の拠点校としての経験が活かされ、各学年工夫された防災学習が行われました。



簡易トイレの  
使い方について(社協)

**まとめ 学校と地域をつなぐ防災****地域の防災意識を高めるために…地区防災とは？**

地区防災とは、地域住民が主体となって行う防災のことで、地域ごとの実情にあった形で行うことが重要です。最近では、隣近所に誰が住んでいるのか分からず、『共助』の意識が薄まっていることが問題視されています。学校が消防団や自主防災会の方など地域とつながることは地域の防災を考える上でとても重要です。また保護者と一緒に学ぶことで、地域全体の防災意識を高めることもできるでしょう。災害時には、自分自身を守る『自助』の次に地域が一丸となって対応する『共助』が大切となります。学校や地区主体の防災で、学校と地域がつながり防災意識を高めることが求められています。



保護者と児童と一緒に学ぶ様子(会染小)

**地域と学校の協働活動****緊急!?霜が降る前にガーデンハックルベリーを学年で一斉収穫(10/28)**

高瀬中学校の総合的な学習の時間では、地域と学校の協働が進んでいます。「花とハーブの里ガーデンハックルベリー生産者の会」の協力で、3年生のグループが栽培や商品開発に挑戦しています。ガーデンハックルベリーはナス科の植物で、目に良いとされるアントシアニンを多く含んでいます。加工することでジャムやゼリーとして楽しめます。今年度は、魅力を広めるために、栽培を通して良さと難しさを学んでいます。



5月に200本の苗木を植え、夏休み中も当番制で水やりを続けました。10月には多くの実が付き、収穫の時期を迎えました。霜が降りて実が痛む前に収穫する必要があります。しかし、グループの生徒だけでは間に合いません。そこで、生産者の会など約15名の地域の方と3学年全体で協力して収穫をしました。収穫できた実はジャムに加工し給食で提供される予定です。栽培してきた生徒は「夏休み中の水やりが大変でした。できれば来年度以降も引き継いでほしいです。」と活動が続く体制を期待。生産者の会代表の瀧澤さんは「目に良いものを子どもに届けたいという思いで始めました。中学生と一緒にできる環境を作ってくださった先生方に感謝したいです。」と話してくださいました。高瀬中の3年生は、他にもグループごと地域の皆さんと協働で活動を進めています。

**地域と学校を繋ぐ地域コーディネーター①**

地域コーディネーターは各学校園運営協議会(CS)ごとに配置され、地域と学校園を繋ぐ役割を果たします。学校園と地域の協働を円滑にしCSを推進することが目的です。具体的には、ボランティアの募集・調整や地域学校園協働活動をサポートし、地域づくりにも貢献します。学校と地域の関係を深め、学校園運営について考えるCSにおいてコーディネーターは重要な役割を担っています。



櫻井さん(池田保・会染小)



丸山さん(池田保・池田小)



宮本さん(高瀬中)

**あいそめ♡ライブ**

地域の方も是非会染小へ見に来てください!!  
休み時間に不定期開催  
(月1~2回)

山口クロケットさんご夫妻  
(音楽コンサート)

(生け花)

各校園では、子ども達の遊びや学習、環境整備等でのボランティアを募集中です。子ども達のためにこんなことをしたいというご提案も随時受けつけますので、各校園、または教育委員会にご一報ください。

**問い合わせ 池田町教育委員会 電話 61-1430 Fax 61-1665】**

《ただいま☆いけだまち ～小さな町で大きな幸せ見つけよう～》

「雑誌だって資源ごみ。読み終わったら燃やさず分別! リサイクル!」